

令和3年度(2021年度)

管理事業名	市庁舎管理事業			総合計画の体系	大綱 - 政策 - 施策 -	-
主な歳出予算科目	一般会計	(款) 2	総務費	(項) 1	総務管理費	(目) 1 一般管理費
部局名	総務部	予算執行所属	総務室			
予算大事業名	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名					
市庁舎管理事業 一般事務事業						
<b>事業の目的と概要</b> <b>【目的】</b> 吹田市役所本庁舎の秩序を維持し、来庁者や職員の財産を守り、安全を確保するとともに、公務を適正に執行する。 <b>【概要】</b> 庁舎管理事業(本庁舎施設の改修工事・設備の更新工事等)に関すること、本庁舎内の秩序の維持及び安全確保を行うこと。						

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	成果指標の定義
庁舎電力使用量	kwh	2,796,806	3,069,131	2,768,023	吹田市役所エコオフィスプランに基づき、前年度比1%減の電力使用量を成果目標としました。
成果の説明	・新型コロナウイルス感染症対策のため、換気における外気導入量の増、職員の時差出勤・休日振替出勤に対応した空調機稼働を行っています。 ・令和3年度は、主にESCO事業による省エネ効率の高い熱源機器やLED照明への設備改修、また、中層棟空調機を省エネ効率の高い機器に更新したこと等により、電力使用量が大幅に減少しました。 ・その他の空調機については、経年による能力の低下が発生することを踏まえ、定期的に保守点検、オーバーホールを実施するとともに効率的な熱エネルギー運用に努めています。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	令和元年度	令和2年度 A	令和3年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	-	-	-	-
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	2,201	2,201
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	212,379	249,389	420,175	170,786
経常収入 小計(a)	212,379	249,389	422,376	172,987
給与関係費	87,650	95,273	94,206	△1,066
物件費	242,403	252,618	562,472	309,854
維持補修費	8,628	16,165	26,898	10,733
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	1,269	1,985	1,982	△3
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	99,159	99,392	116,867	17,475
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	5,270	5,916	6,012	96
退職手当引当金繰入額	1,277	11,004	3,847	△7,157
支払利息	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	445,657	482,353	812,284	329,932
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△233,278	△232,964	△389,909	△156,945
特別収入	-	-	-	-
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-
特別費用	-	-	-	-
固定資産除売却損	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	-	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	-	-	-
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△233,278	△232,964	△389,909	△156,945
一般財源充当額	151,297	285,607	340,465	54,858
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	△81,981	52,643	△49,444	△102,087

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
経常収入	・財産収入(物品売払収入) 2,201千円 (+2,201千円) ・その他(収益事業配分金) 357,261千円 (+125,767千円)
物件費	・委託料(本庁舎ESCO事業等) 438,699千円 (+309,511千円) ・工事請負費(市庁舎中層棟空調機改修工事等) 325,726千円 (+169,073千円)
維持補修費	・建物等修繕料等 26,898千円 (+10,733千円)

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	令和元年度	令和2年度 A	令和3年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	212,368	249,400	422,376	172,976
行政サービス活動支出	349,813	376,762	696,079	319,317
行政サービス活動収支差額	△137,445	△127,362	△273,703	△146,341
投資活動収入	-	-	12,455	12,455
投資活動支出	13,852	158,245	319,717	161,472
投資活動収支差額	△13,852	△158,245	△307,262	△149,017
財務活動収入	-	-	240,500	240,500
財務活動支出	-	-	-	-
財務活動収支差額	-	-	240,500	240,500
収支差額 合計	△151,297	△285,607	△340,465	△54,858
一般財源充当額	151,297	285,607	340,465	54,858
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	(財務活動収入) 本庁舎改修事業債 240,500千円(+240,500千円)
----------	--

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
1日あたりのコスト	令和元年度	365日	1,220,978円	令和3年度は、主にESCO事業に伴う省エネ設備の導入や中層棟空調機の更新等、施設設備投資に係る経費が増加したため、1日あたりのコストが増加(令和2年度比903,921円増)しました。
	令和2年度	365日	1,321,515円	
	令和3年度	365日	2,225,436円	
	令和元年度		円	
	令和2年度		円	
	令和3年度		円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	令和2年度末 A	令和3年度末 B	差額 B-A	勘定科目	令和2年度末 A	令和3年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	5,916	6,012	96
未収金	-	-	-	地方債	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	短期借入金	-	-	-
短期貸付金	-	-	-	賞与引当金	5,916	6,012	96
徴収不能引当金	-	-	-	未払金	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	リース債務	-	-	-
有形固定資産	2,313,299	2,516,467	203,168	その他流動負債	-	-	-
土地	1,004,532	1,004,532	-	固定負債	55,369	295,111	239,742
建物・工作物	1,152,114	1,511,935	359,821	地方債	-	240,500	240,500
リース資産	-	-	-	長期借入金	-	-	-
建設仮勘定	156,653	-	△156,653	退職手当引当金	55,369	54,611	△758
無形固定資産	500	500	-	リース債務	-	-	-
インフラ資産	-	-	-	その他固定負債	-	-	-
土地	-	-	-	負債の部合計	61,285	301,124	239,838
建物・工作物	-	-	-	純資産	2,254,052	2,217,064	△36,989
建設仮勘定	-	-	-	重要物品	-	-	-
重要物品	1,539	1,220	△318	図書館資料	-	-	-
図書館資料	-	-	-	投資その他の資産	-	-	-
投資その他の資産	-	-	-	出資金	-	-	-
出資金	-	-	-	長期貸付金	-	-	-
長期貸付金	-	-	-	基金	-	-	-
基金	-	-	-	徴収不能引当金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	その他債権	-	-	-
その他債権	-	-	-	資産の部合計	2,315,338	2,518,187	202,850
資産の部合計	2,315,338	2,518,187	202,850	負債及び純資産の部合計	2,315,338	2,518,187	202,850

Ⅲ 財務構造分析

▽人にかかるコストの内訳

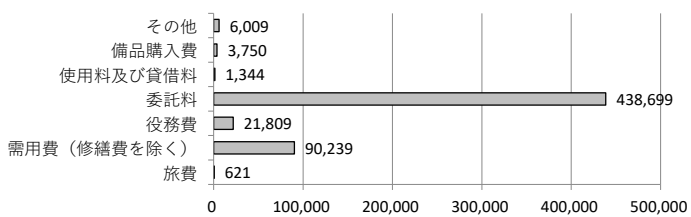
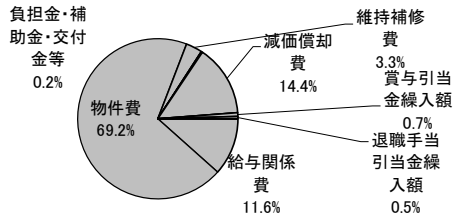
事業従事人数	常勤・再任用		会計年度任用等		特別職非常勤		合計(千円)
	月平均	年間従事延日数	年間従事延日数	年間従事延日数	年間従事延日数		
事業従事人数	9.42人	1307日	0日	0日	0日	0日	104,066
給与関係費等	77,622千円	26,443千円	0千円	0千円	0千円	0千円	104,066
内、時間外勤務手当	1,469千円						

貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
建物・工作物	工作物の取得等による359,821千円の増(市庁舎の中層棟空調機及び低・中層棟用非常用自家発電設備の改修工事等)

▽経常費用の構成割合

物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	吹田市庁舎
取得年月日	昭和39年(1964年)4月ほか
建物・工作物の取得価額	5,127,278千円
建物・工作物の減価償却累計額	3,615,343千円
利用料金収入	-千円

▽分析指標

分析指標	年度			
	令和元年度	令和2年度 A	令和3年度 B	差 B-A
施設維持補修費比率	0.2	0.3	0.5	0.2
施設老朽化比率	73.1	75.2	70.5	△4.7
受益者負担比率	-	-	-	-
徴収不能引当比率	-	-	-	-
一般財源充当比率	41.6	53.4	33.5	△19.9
経常費用対公共資産比率	9.6	10.4	15.8	5.4

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は57.6%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

経常費用の主なものは、物件費562,472千円(69.2%)、減価償却費116,867千円(14.4%)、給与関係費94,206千円(11.6%)、維持補修費26,898千円(3.3%)、賞与引当金繰入額6,012千円(0.7%)、退職引当金繰入額3,847千円(0.5%)、負担金・補助金・交付金等1,982千円(0.2%)となっています。物件費の内訳は438,699千円が警備業務等の委託料、94,239千円が光熱水費等の需用費、21,809千円が通信運搬費等の役務費、3,750千円が備品購入費、1,344千円がコピー機使用料等の使用料及び賃借料、621千円が旅費となっています。施設老朽化比率は70.5%で、市保有施設全体の老朽化比率57.6%と比較すると12.9ポイント老朽化が進行している施設です。維持補修費比率は0.5%となっています。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

吹田市役所本庁舎については、昭和39年(1964年)3月に低層棟が竣工して以来、高層棟、中層棟、仮設棟と建設されましたが、低層棟については、竣工年から50年以上が経過しています。平成11年(1999年)度に約8,800万円をかけて耐震改修、平成21年(2009年)度に約3,700万円をかけて中層棟の外壁工事を実施しましたが、空調設備やトイレの排水管等、経年劣化に伴う修繕対応も増加しています。本庁舎の建替にはしばらくの期間を要することから、今後も財政状況を考慮し、適切な維持保全を計画的に実施していく必要があります。このため、経年劣化や突発的な災害による修繕等についても、緊急性・重要性から優先度を考慮し、限られた予算で効率的に行っていく必要があります。また、自動販売機の設置使用料を徴収すること等により歳入を確保するとともに、ESCO事業の実施により積極的に節エネに取り組みながら歳出削減を図るなど、本庁舎運営の更なる効率化に努めてまいります。本庁舎は、市政の拠点であるとともに、非常時には防災拠点となるなど、柔軟かつ効率的な管理運営を行う必要があります。長期化しているコロナ禍においては、引き続き、消毒液等の感染予防に必要な物品を配置するとともに換気を徹底する等、本庁舎内の感染症対策に努めてまいります。現在は、常勤職員と会計年度任用職員等の配置及び警備業務や清掃業務など一部業務を委託することで、本庁舎を365日管理しています。当面は現行の体制を維持していく必要があると考えていますが、より効果的かつ効率的な施設管理体制を見据え、他市状況や業務の手法等を研究していく必要があります。